

12月号 営農インフォメーション

麦・野菜・果樹の管理のポイント

麦・・・排水対策の徹底と収量確保のため、追肥を施用し茎数を確保します。

野菜・・・品質保持のため防寒対策を行います。

果樹・・・せん定の時期です。

麦

① 排水対策

麦は湿害を受けると大きく減収します。その生育は気象条件に大きく左右されます。これからの時期は、降雨や積雪により明渠（排水溝）が埋まったりしますので、滞水しないよう徹底した排水対策を行い、品質・収量低下を抑えることが大切です。

特に湿田や排水対策が出来ていない圃場では12月に葉色が黄化し、引き抜くと根張りが弱く褐変している場合は、湿害と考えられます。溝に水が停滞するような場所があれば、溝さらえを行い水がたまらないように管理します。またトラクターのタイヤ跡も排水溝につなぎ、排水溝の雑草も取り除くようにします。

② 追肥

12月下旬から1月は麦の追肥時期となります。品質・収量の向上には施肥管理が欠かせません。この時期の追肥は分けつを促進させます。12月中旬における目標茎数は 1m^2 当たり300～400本とし、少ない場合は早めに施用し、多い場合は施用を遅らせ、生育に応じた施肥量・施肥時期の調整が必要です。実需者が求める高品質の麦を生産するためには追肥が重要な作業になりますので必ず実施してください。

【全層施肥】追肥

(10a 当り)

時 期	肥 料 名	施 用 量
12月下旬～1月上旬	国産化成肥料 14-14-14 または 化成肥料 20-0-10	20kg または 15kg

※基肥に省力型肥料（セラコート R2500・麦パンチ）を施用している場合は、追肥の必要はありません。

また、近年は後期重点型施肥（基肥を抑え穂肥頃2月中旬頃に総チッソ量の7～8割を施用する栽培方法）に取り組まれている農家もおられます。

メリット・・・反収が比較的良い。

デメリット・・・穂肥施用量が多く動力噴霧器では重労働。成熟期が遅れる。

野菜

ハクサイは、球が完成すると耐寒性が弱まります。霜が降りると球が傷むので、外葉を寄せて先をヒモなどで軽く縛り防寒します。

コマツナ、ホウレンソウなどの葉菜類は不織布をべた掛けして寒さを防ぎます。また、タマネギやエンドウなど、小さい株で越冬する野菜にも不織布のべた掛けは有効なので、12月下旬にべた掛けを行い2月下旬に外してください。

ダイコンは、収穫が遅れるとす入りとともに裂根するので根の肥大が進んだものから早めに収穫するようにしてください。す入りは秋作では大きくなってから現れます。葉柄を切り、断面の一部にす入りしていると根にもすが入っていることが多いです。

●タマネギ・ナバナの管理について

タマネギ

- ・追肥…12月中下旬は一回目の追肥の時期です。燐硝安加里 S604 を 30 kg/10a 施用します。
- ・防除例（重点園芸品目栽培設計書・12月抜粋）

時期	用途	農薬名	対象病害虫	希釈倍数	使用回数	収穫前日数
12月中旬	殺菌 (予防)	ダコニール 1000	べと病、白色 疫病、灰色か び病	1000倍	6回以内	7日前まで

ナバナ

- ・追肥…収穫開始1ヶ月後に三回目の追肥として、畝間に化成肥料 20-0-10 を 20 kg/10a を施用します。
- ・収穫…花蕾が伸び、開花前に茎葉を着けて摘み取ります。
目安は8～12cmで摘み取ります。
収穫が遅れると黄色い花が咲きますので、適期に収穫を行います。

果樹

◎せん定

樹体の休眠中である冬季はせん定の時期になります。具体的には、晩秋の落葉後から春の発芽までの間がせん定期間になります。しかし、春の発芽直前のせん定は、枝の先端に集まってきた養分を切り捨てることになり、余裕を持ち、せん定を行うようにしてください。

【せん定の目的としては、以下の4つの点が挙げられます。】

- ① 作業に便利のように樹形を整え、果実重量を支える丈夫な骨組みを作る。
- ② 隔年結果を防止し、毎年平均した収量を上げる。
- ③ 樹冠全体に日光が十分に行きわたるようにし、品質のそろった果実をならす。
- ④ 病害虫の被害が発生している枝を取り除き、病害虫の発生を少なくする。

また、代表的な果樹のせん定の時期は下の表のとおりです。

	11月	12月	1月	2月	3月
カキ					
クリ					
ウメ					
モモ					
イチジク					
ブドウ					
キウイ					
ブルーベリー					
カンキツ類					

せん定を行う際は樹勢にあわせたせん定を行い、せん定後にはトップジンMペーストや木工用ボンドなどを塗布し、樹皮の癒合を促進させます。

※せん定後の切り枝は、病害虫の越冬場所になるため、園から持ち出し処分しましょう。